

生成 AI の利用に当たってのガイドライン

第 1.0 版

令和 8 年 4 月
瀬戸内町総務企画課情報政策係

改訂履歴

版数	策定（改訂）日	内容
第 1.0 版	令和 8 年 4 月 2 8 日	初版発行

生成 AI の利用に当たってのガイドライン 目次

1	目 的.....	4
2	適用範囲.....	4
3	対象サービス.....	4
4	利用制限.....	4
5	生成物の利用に際して注意すべき事項	5
6	安全な運用・管理体制.....	6

1 目的

本ガイドラインは、職員、会計年度任用職員（以下「職員等」という。）が業務で生成 AI を利用するに当たり遵守すべき事項をまとめたものです。

生成 AI は、様々な事務作業や事務手続等に役立てられる反面、入力するデータの内容や生成されたデータの利用によって、個人情報や機密情報の漏えいや法令違反、他者の権利侵害となる可能性があります。

生成 AI はあくまで業務効率化のための補助的なツールであり、業務における検討・判断の責任は、職員自身にあることを認識し、自らの知識・専門性にもとづき、最終的な判断を行うなど、本ガイドラインを理解しセキュリティ対策を行い適切に利用してください。

2 適用範囲

本ガイドラインが対象とする組織は、瀬戸内町情報セキュリティポリシーの適用範囲と同様とします。

（参考）瀬戸内町情報セキュリティポリシー

第1章 情報セキュリティ基本方針

4 適用範囲

(1) 行政機関の範囲

本基本方針が適用される行政機関は、内部部局、行政委員会、議会事務局、町消防分署及び地方公営企業とする。

3 対象サービス

本ガイドラインが対象とする生成 AI は、大規模言語モデルを利用した文章生成 AI とし、入力データが AI の学習に利用されない設定が可能であるなど、セキュリティが担保されたサービスとします。

具体的なサービスは、統括情報セキュリティ責任者（総務企画課長）が別途指定します。

4 利用制限

生成 AI の利用に当たり入力したデータが、AI 学習のため二次利用される場合や、システム運営事業者が不正利用の監視等のため一定期間保存する場合があります。このため、以下に該当するデータを生成 AI 利用のため入力することを禁止します。

- (1) 個人情報を含むデータ（機密性3に該当するデータ）
- (2) 秘密文書に相当する機密性を要するデータ（機密性3に該当するデータ）
- (3) 秘密文書に相当する機密性はないが、直ちに一般に公表することを前提としない情報を含むデータ（機密性2に該当するデータ）
- (4) 第三者が著作権や登録商標、意匠（ロゴやデザイン）を有するデータ

参考) 機密性による情報資産の分類

分類	分類基準	取扱制限
機密性 3	行政事務で取り扱う情報資産のうち、秘密文書に相当する機密性を要する情報資産	<ul style="list-style-type: none"> 支給以外の端末での作業の原則禁止（機密性 3 の情報資産に対して） 必要以上の複製及び配付禁止
機密性 2	行政事務で取り扱う情報資産のうち、秘密文書に相当する機密性は要しないが、直ちに一般に公表することを前提としていない情報資産	<ul style="list-style-type: none"> 保管場所の制限、保管場所への必要以上の電磁的記録媒体等の持ち込み禁止 情報の送信、情報資産の運搬・提供時における暗号化・パスワード設定や鍵付きケースへの格納 復元不可能な処理を施しての廃棄 信頼のできるネットワーク回線の選択 外部で情報処理を行う際の安全管理措置の規定 電磁的記録媒体の施錠可能な場所への保管
機密性 1	機密性 2 又は機密性 3 の情報資産以外の情報資産	

5 生成物の利用に際して注意すべき事項

(1) 生成 AI に適さない利用

生成 AI は、学習したデータを元にユーザーの指示に従って、文章の作成や要約、翻訳、アイデアなどを生成しますが、常に最新の情報を学習しているものではないため、検索としての利用には適していません。検索には Google や Yahoo などの検索サービスを利用してください。

(2) 内容の確認

文章を生成する生成 AI の基盤となる大規模言語モデル（LLM）の原理は、「ある単語の次に用いられる可能性が確率的に最も高い単語」を出力することで、もっともらしい文章を作成していくものであり、書かれている内容には虚偽が含まれている可能性があります。

また、生成 AI はインターネット上の情報をもとに学習しているため、学習したデータに差別・偏見等の偏りが含まれていた場合、生成物にもその偏りが反映される可能性が考えられます。

生成されたデータについては、必ず根拠や裏付けから内容を確認した上で利用してください。

(3) 著作権等の侵害

生成されたデータが、第三者が著作権や商標権、意匠権（以下「著作権等」という。）を有するもの同一、又は類似している場合は、当該生成物の利用が著作権等の侵害に当たる可能性があります。特に以下の利用に関しては、著作権等の侵害に当たらないか十分に確認をしてください。

ア 特定の作者や作家の作品を学習させた特化型 AI の利用

イ 入力するデータに著作物や作家名、作品名等を入力した利用

ウ 生成 AI で生成したキャッチコピー等の利用

(4) 虚偽の個人情報・名誉毀損等

生成 AI の特性上、生成されたデータに虚偽の個人情報が含まれる場合があります。このようなデータを利用した場合、個人情報保護法違反や名誉毀損等に該当する可能性があります。利用に当たっては慎重な取り扱いをしてください。

(5) 最終的な確認

生成されたデータの利用に当たっては、そのまま利用することは避け、上記(1)から(4)の確認を行い、必要な加筆・修正をしたものを利用してください。

加筆・修正しないで利用する場合は、必ず「生成 AI の回答を利用」等を付記してください。

6 安全な運用・管理体制

(1) 生成 AI を利用する場合は、情報セキュリティ責任者(各課局長)の承認を受けてください。

(2) 生成 AI の利用に関しては、情報セキュリティ責任者(各課局長)で内容を確認の上、利用の可否を御判断ください。

(3) 万一、情報流出が発生した場合は、「瀬戸内町情報セキュリティポリシー」に基づき対応してください。

(4) 本ガイドラインは、今後の運用状況などを踏まえて、随時見直しを行います。